

6 一次選考に関する方針

【投票方式】 投票された数の合計が多い順に選定

	委員ア	委員イ	委員ウ	委員エ	ポイント	1回目	2回目
A者	○			○	2	二回目へ	再投票
B者	○	○		○	3	通過	
C者	○	○	○		3	通過	
D者					0	落選	
E者			○	○	2	二回目へ	再投票
F者	○				1	落選	
G者	○	○	○	○	4	通過	
H者		○	○		2	二回目へ	再投票
I者		○			1	落選	
J者			○	○	2	二回目へ	再投票

利点：シンプルな方式であり、参加表明者が多くなった場合でも委員の負荷は比較的軽減される。

技術提案書受領から第2回選考等委員会までに十分な時間が確保できない場合でも評価しやすい。

課題：各委員が提案テーマのどの部分を評価したのかが分かりにくく、一次選考通過の説明や委員同士の意見交換は行いにくい。同点となった場合は、数回の投票を行うことになる。

(回数は増えるが、比較的短時間で投票は可能と想定される。)

【採点方式】 10点満点で採点を実施した場合 合計ポイントの多い順に選定

	委員ア	委員イ	委員ウ	委員エ	ポイント		
A者	10	7	0	10	27	通過	
B者	10	10	0	8	28	通過	
C者	8	8	10	5	31	通過	
D者	4	2	0	5	11	落選	
E者	6	6	6	7	25	通過？	投票？
F者	6	2	0	5	13	落選	
G者	5	8	6	9	28	通過	
H者	3	8	8	5	24	落選？	僅差・・・
I者	3	9	0	5	17	落選	
J者	3	4	8	10	25	通過？	投票？

利点：各参加表明者の評価差が分かりやすく、委員同士の意見交換は行いやすい。各テーマごとに採点することもでき、各委員の専門性による評価の違いで、更に専門的な意見交換ができる可能性がある。点数による順位が付くため、通過者の説明が容易である。

課題：参加表明者数が多い場合、全参加表明者の採点を行うことになり、委員の負担は大きい（テーマごとに採点する場合は更に負担が大きくなる。）。また、上位と考える参加表明者のみを採点する方法も考えられるが、合計点数に大きなばらつきが発生する可能性がある。

【順位採点方式】 1位を5点、5位を1点、6位以降は0点 合計ポイントの多い順に選定

	委員ア	委員イ	委員ウ	委員エ	ポイント		
A者	5			5	10	通過	
B者	4	5		1	10	通過	
C者	3	1	5		9	通過	
D者					0	落選	
E者			4	2	6	通過？	投票？
F者	2				2	落選	
G者	1	2	1	3	7	通過	
H者		3	3		6	通過？	投票？
I者		4			4	落選	
J者			2	4	6	通過？	投票？

利点：シンプルな方式であり、参加表明者が多くなった場合でも委員の負荷は比較的軽減される（ただし【投票方式】に比較するとやや負荷は高くなる。）。技術提案書受領から第2回選考等委員会までに十分な時間が確保できない場合でも評価しやすい。

各参加表明者の全体での評価差は順位で確認でき、委員同士での意見交換が進みやすい。

課題：順位でのポイントをもらえない参加表明者はすべて0点となり、合計点のばらつきは大きくなる。また、その解消のためにすべての参加表明者に順位をつける方法も考えられるが、参加表明者が多い場合は委員の負担は大きくなる。【採点方式】と比べると、委員の負担は小さいが、評価の理由等が曖昧となることがある。